



# オアシス

文責：学長  
桑原雅次

出雲芸術アカデミーだより 2025年4月9日発行 第79号

令和6年度が終わりましたが、年度末は慌ただしい毎日をご過ごしていたために、振り返る暇もありませんでした。本アカデミーは、一昨年まで5月始まりの4月末終わりの年度形成でしたが、昨年からの世の中の動向に合わせる形で、4月初めの3月末終わりとなりました。ファミリーコンサートの終了と同時に目まぐるしく年度をまたぐこととなります。

新しい年度に入りましたが、昨年度末の様子を紹介しておきます。

## R6年度末の振り返り！

### ●『海と山の交流演奏会』

本アカデミーのJr.フィルが尾道市へ出かけ、交流演奏会を開催しました。「尾道学園音楽部」と「海と山の弦楽合奏団」の皆さんとの交流演奏会でした。この演奏会が開催されるきっかけは、中井芸術監督と尾道学園音楽部と海と山の弦楽合奏団の指導者である半田久夫氏との出会いがあり実現したものです。

大型観光バス2台に分乗し、一路松江・尾道道を南下して向かいました。好天に恵まれていたため尾道駅前下車し、対岸の向島へは渡船を利用しました。向島は、尾道駅から瀬戸内海を隔て、すぐ目の前に臨むことが出来、気候も穏やかで空の色合いも山陰地方と比べるととことく違うような気がしました。また、港町らしくクレーンがあちこちに立ち並び、その昔には村上水軍が活躍した土地柄であり、造船業が発展してきた様子がうかがえました。

向島に渡り、尾道学園で前日リハーサルが始まりました。初めて共演したにもかかわらず、時間を追うごとに息もぴったりと合うようになり、さらに交流会を通して心も通じ合い演奏会成功へ向けての期待が高まってきました。

コンサート当日は「しまなみ交流館」で開催され、その期待通りの交流演奏会となり、たくさんの来場者と素晴らしいホールの環境のもと、心に残るものとなりました。出雲Jr.フィルの皆さんは、2日間の団体行動を通して、より仲間意識が深まり合奏力も向上したように感じられました。また、出雲フィル・コンサートマスターの高畑壮平氏も同行していただいたことは、Jr.フィルの皆さんにとってとても心強く感じられ、より質の高い演奏につながっていったことと思います。

### ●『うららかな春のア〜ット・ホームな音楽会』

ファミリーコンサートの1日目として「生涯楽修コース」の皆さんによる各講座の集大成として開催されました。

◆オープニングは、コーラス・レパートリーの男声合唱団によるステージから始まり、歌手、加山雄三（作曲：弾厚作）氏の持ち歌「海 その愛」を力強く歌いあげました。

- ◆邦楽合奏（箏）は、「証城寺のスケルツォ」を指揮者のタクトのもと、西洋楽器であるフルートを伴い、和と洋が混じり合った神秘的な合奏を披露し、会場の皆さんを魅了していました。通常の十三弦に十七弦が加わった合奏は、箏の魅力をいっそう引き立てていました。
- ◆キッズ音楽入門[はじめの一步]は、小学1年生から3年生までの講座で、音楽の基礎を学んでいます。今日の発表は、「音楽物語〈海の楽たい〉」を場面ごとに各楽器を駆使しながら音楽劇風にステージを所狭しと動き回り、表現する喜びを感じながら楽しんでいました。
- ◆幼児音楽入門[うたなかま]は、「音楽劇〈ウララッツ〉」を親子で微笑ましく演じました。この音楽劇ウララッツは、前学長、故米山道雄氏の作曲によるもので、レパートリーの1つとなっています。今年も親子愛を存分に発揮していただきました。
- ◆コーラス・レパートリーは、「ソウラン節」をアカペラで歌いあげ、J-POP ソングから「いのちの歌」、東日本大震災により甚大な被害を受けた福島県の南相馬市立小高中学校卒業生による曲、「群青」は歌詞を噛みしめながら気持ちのこもった表現を披露しました。最後は、本格的な合唱曲「混声合唱組曲〈水のいのち〉より 雨」にチャレンジし、練習の成果が存分に発揮できたステージとなりました。
- ◆フィナーレは、出演者全員がステージに上がり「さくらがパパ」と「ありがとうの花」を歌いあげ、感謝の気持ちが会場全体を包み込みアットホームな雰囲気での終演となりました。

## ●『出雲フィルハーモニック プロムナード・コンサート』

ファミリーコンサート2日目は、「舞台芸術創造コース」を受講する皆さんによるステージです。

◆オープニングは、ジュニアオーケストラの管打楽器は初心者クラス、弦楽器は入門クラスとベーシックの皆さんによる合奏で「おもちゃの交響曲 第1楽章」を初披露しました。小鳥の鳴き声など擬音が多く登場し、音楽の楽しさを体験することが出来たようです。この講座を担当する森山貴宏さんも指揮が初披露となりました。

◆ジュニアコーラスは、「合唱組曲〈あめつちのうた〉Ⅰ,空のうた Ⅱ,樹のうた Ⅲ,風のうた Ⅳ,水のうた」という難曲に取り組みました。練習の成果も実り緻密な合唱が披露され、会場の皆さんを魅了していました。

◆オペラ合唱&ジュニアコーラスの皆さんによる合唱を背景に、「歌劇〈シルヴァーノ〉から第3景・第4景」をテノール歌手とソプラノ歌手が朗々と歌いあげ、総合舞台芸術の一端を披露していただきました。次にバロック音楽からバッハの「カンタータ第61番〈いざ来たれ、異邦人の救い主よ〉」は、若いアーチスト集団で編成された弦楽合奏団にファゴット&オルガンを加えたアンサンブルです。内容は、キリストの降臨を待ち望む信仰の姿を描いた宗教作品をソプラノ歌手、テノール歌手、バス歌手のソリストの皆さんと合唱団が礼拝のリアルな場面に入れ、臨場感あふれるステージとなりました。

◆後半は、ジュニアオーケストラによる「歌劇〈ザンパ〉序曲」と「映画〈パイレーツ・オブ・カリビアン〜呪われた海賊たち〉メドレー」から始まりました。この2曲は、先日の尾道での交流演奏会で、尾道と出雲が互いに海の男たちを描いた作品を持ち寄って披露されたものです。2度目の公演ですので、さらに磨きがかかり密度の高い演奏となりました。ジ

ジュニアの皆さんが自信をもって堂々と演奏されていたのが印象的でした。

◆ジュニアオーケストラ&交響楽団は、「交響詩〈フィンランディア〉」を演奏者全員が勇猛果敢に攻める音楽表現で、会場の皆さんを音圧で圧倒している様子がうかがえました。

◆最後のステージは交響楽団です。コンサートマスターの高畑壮平氏をはじめ、iPhil チェンバー、オケレパジュニア&OBOG、客演及び賛助出演の方等の総力が結集されました。演奏作品は、ドヴォルジャークの「スラヴ舞曲第1番」と「交響曲第8番第1楽章」。その演奏は、優雅にそして統制の取れた心地よい音色がホールいっぱいに響きわたり、オーケストラの醍醐味を味わうことが出来たようです。

今年のファミリーコンサートも2日間にわたりましたが、各講座を受講する皆さんの熱意が伝わり、見どころ聴きどころのあるコンサートになったことに間違いありません。また、本コンサートにOBOGを始め多くのご理解あるアーティストの皆様にお集まりいただき、最高の演奏環境が整いましたこと、誠にありがとうございました。そして、最大の功労者は何とんでも中井芸術監督の企画力、指導力であろうと思います。その最大の支えとなっていたのが、コンサートマスターの高畑壮平氏であり、両軸がしっかりとハマった安定感のあるコンサートになりましたことに感謝いたします。

最後になりますが、今回はステージマネージャーの畑山氏を中心に指導者の皆さんのお力添えを得、ステージ進行がほぼ時間通りで順調に進みましたことは、最大の成果でありました。また、コンサートまでのアーティストの皆さんとの連絡調整等の役割を音楽教育指導員並びに事務局員の方々には大変お世話になったことも申し添え感謝しています。

## フォトギャラリー

### ●交流演奏会

バスにていざ出発！



渡船で向島へ！



交流会で団結！



コーラスの場面！



オーケストラの場面！



しまなみ交流館大ホール！



指揮者体験コーナー！



最後は出演者全員で！



●ファミリーコンサート 1 日目【うららかな春のア〜ット・ホームな音楽会】



オープニングは男性コーラス！



邦楽合奏&フルート！



幼児音楽入門！<親子>



キッズ音楽入門！



コーラス・レパートリー！



フィナーレは出演者全員で！

●ファミリーコンサート 2 日目【出雲フィルハーモニック プロムナード・コンサート】



おもちゃの交響曲！



ジュニアコーラス！



歌劇《シルヴァーナ》から！



カンタータ第 61 番の場面！



ジュニアオーケストラ！



ジュニアオケ&交響楽団！



満員の聴衆を迎えて！



修了生と指導者で記念撮影！



修了式の様子！